

学 校 だ よ り

蓮 沼 中 学 校

令和6年度 第10号
令和7年2月20日発行
大田区立蓮沼中学校
校 長 張替 健二

「 “考える” を考える 」

7時起床。そこから顔を洗い、ねむけまなこ（眠け眼）で朝食を済ませ、歯を磨き、着替えて8時25分には学校へ。朝学活を終えた8時45分に1時間目が始まり、気が付けば12時50分に「いただきます!」。食後の昼休みは校庭で目一杯汗をかき、気合いを入れて5時間目。ようやく6時間目を終えた15時20分。終学活で明日の予定を確認し、16時からの部活へ。一生懸命取り組んで帰宅した後、素早く軽食を済ませる。そして、夜に用事がある人はもうひと踏ん張り。帰宅後によりやく夕食、お風呂、そして、宿題に取りかかる。1日の終わりはスマホで、世の中の動向を確認しながら・・・ZZZ。

さて、こんな1日の生活の中、みなさんはどのくらい“考える”ことをしていますか? 「いやいや、毎日、授業では問題が出され、それを解くために考えているよ!」と思う人たちが大半を占めるのではないかと思います。しかし、それは本当に“考える”ということなのでしょうか?

では、実際に“考える”ということはどういうことなのか? 私も時代の流れに乗り「考える」とググってみると色々情報が出てきました。すると、多々ある中で、このようなものに目がとまりました。「私たちは“問い”があって、はじめて“考える”ことができます。学校にも無数の“問い”があります。しかし、その“問い”は人から与えられたものであり、自ら問うて考えているわけではありません。そして、これらの“問い”は、答えを出したらそれで消滅します。」(参考文献: 梶谷 真司 考えるとはどういうことか. 幻冬舎新書. 2018. 262p.)

今回、この学校便りの原稿を担当する機会を与えていただき、生徒のみなさんに「何を伝えようか」と考え始め、視野を広げ、様々なものにアクセスし、自らのアンテナを高くしながらその題材となりそうな話題を集めようとしてしました。そして、その過程においてたどり着いたのがこの“考える”ことでした。

さてさて、先ほどの“考える”ことについて、「で、つまり“考える”こととはどのようなことなの?」と思う人たちもいますよね。そうです。ここからがまさに“考える”ことの始まりです。

新たな年度に向けた準備期間とされる3学期。落ち着いた生活の中でのちょっとした出来事に、自ら“問い”を見いだしてみるのも良いかもしれませんね。

いよいよ3学期も残り1ヶ月ほどとなります。3年生は、3年間の活動や取り組みを通した自身の成長の集大成となります。また、1、2年生も1年間の振り返りを通した自身の今の姿に目を向け、成長につなげていく良い機会となります。みなさん一人ひとりが、次年度に向けて前向きに取り組んでいくことを願います。

(文責 井原章行)



11月5日に発行した「学校便り7号」でご案内しました、「蓮沼中こどもポスター」がついに完成しました。生徒、教職員、地域・保護者それぞれが、「蓮沼中こどもポスター」にふさわしい言葉を持ち寄り、意見を出し合い、話し合い、時間をかけて策定しました。このポスターは各教室に掲示します。この言葉を大切にして、生徒の皆さんは元気に健やかに成長していきましょう。大人は、この言葉のように皆さんの成長をサポートしていきます。

ご協力いただいたすべての方々、大変ありがとうございました。

なお、今後は生徒の部分は学年が変わると、適宜変化させていく予定です。

笑顔とあたたかさあふれる 未来を創り出す力を育てます

こどもは、意欲をもって真剣に学びます

○一つ一つのことに責任をもって行動します(一年生)
○自ら考え、判断し、仲間とともに学びに取り組みます

(二年生)

○自分らしさと協力を大切にし、意欲的に学びます(三年生)
○自分の得意なことで互いに助け合います(1組)

教師は、こどもに寄り添って教えます

○生徒が互いを認め合い、協力できる環境をつくれます
○信頼関係を築き、一人一人の可能性を引き出します
○心に寄り添い、温かく見守り、成長を促します

保護者・地域は、こどもの学びを支えます

○こどもの夢をかなえる環境をつくれます
○夢ある将来に向けて、話ができる余裕をもちます
○心身ともに健康に過ごせるようにします

令和七年二月七日 大田区立蓮沼中学校